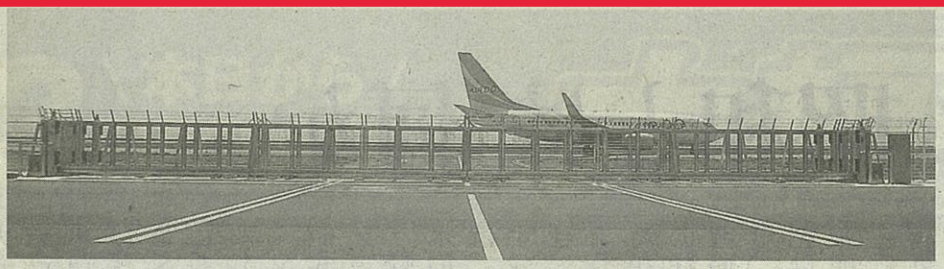
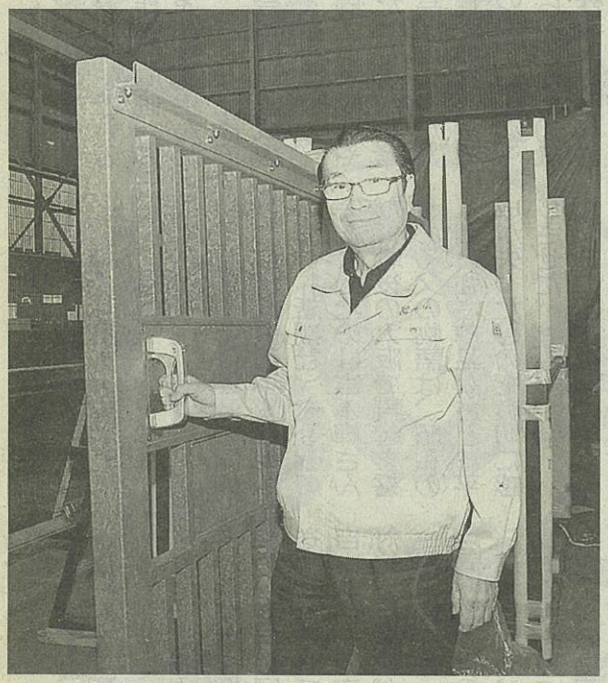


応縁が造った神戸空港の門扉＝応縁提供

大型門扉開発に注力

応縁（姫路市）



「より動かしやすい大型門扉をたくさん造っていきたい」と話す河越社長（姫路市で）

住宅リフォームや小型門扉を中心に手がけてきた「応縁（おうりえん）」（姫路市京町）がここ約10年間、大型門扉に力点を置き、業績を伸ばしている。国内各地で航空機の格納庫など長さ30㍍以上、時には100㍍を超える特大サイズを製造。河越祥郎社長(72)は「門扉の分野で先頭を走る」と意気盛んだ。（西海直也）

週刊経済

神戸市出身の河越社長が証券会社勤務を経て1972年に起業。工場用地を確保しやすく、交通の便もいい姫路に拠点を置き、住宅リフォームのほか、キッチンや家具の製造販売を行ってきた。

大型門扉の開発を本格化させたのは2009年春。前年のリーマン・ショックで業績が落ち込み、「注文があれば受ける、という姿勢だったが、もっと自分たちの技術を売り込んでいかねば生き残れない」と危機感を抱いたからだ。

そんな折、神戸空港（神戸市）に航空機の格納庫と滑走路を隔てる門扉を設ける計画を知った。名乗りを上げ、▽鉄骨を溶接で組んで強い衝撃にも耐える▽さび止め加工や塗装などで耐久性も備える▽重量があるのに手動で開閉できる「企業秘密」（河越社長）の独自技術を活用――などの点をアピールした。

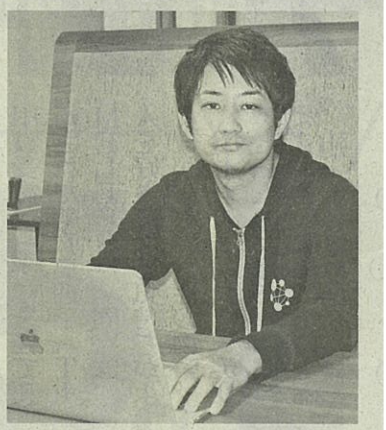
様々な技術、工夫を凝らしたため、価格は競合した5社の2倍ほどに。元請けの大手ゼネコンは性能の良さを認める一方、値下げを要望。河越社長は「空港での事業に成功したら、自社の門扉を多くの人が目にしてくれる。アピールできるチャンスだ」と考え、採算度外視で契約に成功した。

完成した門扉は長さ45㍍、高さ2・25㍍、幅0・75㍍。スライドタイプの電動式だが、停電に備え、手動に切り替えてレバーでも開閉できるようにした。以降、注文が次々と舞い込んだ。航空自衛隊三沢基地（青森県三沢市）や大阪府警の機動隊庁舎（大阪市）から小学校の校門まで数百の門扉を造ってきた。

現在は社員37人で、会社・工場とも姫路市にあるが、東京進出の構想も進む。河越社長は「市場規模が関西より大きい。まずは支店を置いて会社の名前を広めたい」と野心を燃やす。

相生産のカキを味わえる店を紹

Baseconnect（ベースコネクト）社長



人が確認したうえでウェブサイトに掲載する。情報は登録会員がネットで閲覧できる仕組みだ。

大阪府内の高校生時代から国際貢献に関心があり、カナダに留学したり、民間活動団体資金をテコに　現在の会社を創業した。

これまでに45万社のデータを蓄積し、19年春までには100万社に増やす計画だ。さらに、「将来的には、企業や個人が情報収集にかける時間を今の10分の1に短縮し、株式上場すること」を目標に掲げる。

関

景況感 半年ぶり改善

日銀神戸支店が短観

日本銀行神戸支店は14日、12月の県内の企業短期経済観測調査（短観）を発表した。全産業の業況判断指数（ＤＩ）は、前回９月の調査から６㌽改善しプラス15となった。改善は２四半期ぶりで、2008年秋のリーマン・ショック以降の最高値を更新

世界的に好景気ることに加え、ど災害の影響が